小さな政府か、
それとも大きな政府か。
どちらを選ぶかと聞かれたら、
あなたはどう答えますか？
考えたことがないって？
えんな馬鹿な！

大きな政府の最たるものは、
社会主義国家。
国民のお金をすべて政府が
吸い上げて、
政府がその使い道を決めてしまう。
社会主義国家は
破綻してしまったが、
実は福祉国家という形で
命脈を保っている。
公務員も議員も
大胆に減らしてしまおう。

都道府県制度から道州制へ
民間でできることは民間へ
地方でできることは地方へ
自分でできることは自分で。

それって
当たり前だよね。
行政の無駄はいろいろなところにある。
公立の認可保育所でゼロ歳児を1人預かると、
税金が月50万円もある！
それならばいっそゼロ歳児の親に月10万円渡して、
5世帯を助けることを考えるべき。
保育所では朝7時から夜7時まで
ゼロ歳児から小学校入学前までの乳幼児を預かっている。
いちばんふれ合いが必要な時期に、
朝・昼・夕の3食を、親と一緒にとらない子供もいる。
果たして子供のためになるのだろうか。
お金を出すだけではなく、
親子のふれ合いの時間を増やす施策を考えている。

公務員の数ももっと減らせる。
東京の杉並区では、
破綻寸前の財政を立て直すために、
10年間で職員の約4分の1にあたる
1000人を減らした。
それでも行政サービスの質は向上した。
道州制を導入して、
都道府県の仕事を市区町村に移せば、
4分の1くらいの職員でやっているはず。
国家の仕事も道州に移管すれば、
国家公務員も半分以下に減らせる。
行政にかかるコスト、人件費はこれで劇的に減らせる。
貧しい時代は少ない富を集めて
地方に分配する
中央集権的な国家運営が有効な場合が多い。
ところが国が豊かになると、
中央政府をできるだけ小さくして
地方分権を進めた道州制による
統治機構が力を発揮する。

すると地方は自由になり、
地域の特性に合った発展ができる。
世界の企業や資本にとって
魅力ある施策、
制度を独自につければ、
世界から企業や人が集まって
富と雇用をつくってくれる。